

米代川でのカヌー

旧天神小学校の建物の中に、カヌー愛好家が二ツ井町の人々のためのカヌークラブを設置した。彼らは自分たちのスペースを天神工房と呼び、簡単なステッチ&グルー工法によるカヌーと、より複雑なストリップカヌーの製作方法を人々に教えている。このグループは、道の駅ふたついの近くで小さなカヌーの体験コンテンツも提供している。

木彫りカヌーは有史以前の時代から日本で造られてきたが、1950年代に北米スタイルのカヌーとカヤックが人気を博した。米代川で昔からカヌーが使用されていたわけではなく、米代川は、1500年代に秋田の山で伐られた杉の木材の主な出発地であった。

実際に、1950年代半ばまでは、丸太のいかだは川を下って海へと流され、その後日本列島を縦断していた。しかし今日では、これらの川を下るのは行楽客だけであり、丸太の代わりに小さいカヌーが川を流れる。実際、米代川下りは秋田を体験するのに最も良い方法の1つとも言える。なだらかな丘と森の間を水が流れ、保護区域である白神山地の森に接する小さな町の素晴らしい景色を眺めることができる。時々サクラマスが水面から飛び出し、水面近くの虫を捕まえるのを見ることができる。アジサシやミサゴが、水に飛び込んで水面近くまで来た魚を捕まえようと、頭上で円を描く。